

●個人経営の産後ケアを増やしてください

Q.

現在二人の子育て中です。

一人目の育児中、産後ケアを利用させていただき、とてもありがたかったです。

産後ケアが増えているようですが、ぜひ個人経営の産後ケアを増やしていただきたいのです。

病院や保育園を活用しての産後ケアは増えてきていますが、施設や職員さんがそれ以外の役割を担っていると思うと、ゆったりとした気持ちで休めないし、相談がしづらいのです。（職員の方々が悪いのではありません。）

個人経営の産後ケア現在3ヶ月待ちと聞きました。困った時に利用したいです。

出産や子育てで疲れた体と心を癒すのに、プライバシーが守られること、ゆっくり話を聞いてもらえる雰囲気が必要だと思うのです。

友達や後輩には子どもを望んでいる子がたくさんいます。その子たちに新発田での子育てを勧められるよう、ぜひお願いします。

（令和8年8月受付）

A.

当市では、「子育てするならやっぱり新発田」の旗印のもと、これまでも各種支援策を展開し、安心して子育てできる魅力ある環境づくりを進めており、中でも産後ケア事業は子育て支援策の中核を担う事業と位置づけ、官民連携のもと、事業を展開しております。

そのような中、令和7年頃からの急速な産後ケアニーズの高まりに対し、サービスの供給側である産後ケア事業者の受入数が追いつかず、速やかな利用につながっていないことは喫緊の課題となっております。

その対応に向け、市内民間事業者の掘り起こし、働き掛けを行い、2つの新たな事業者と委託契約を締結するなど、受け入れ施設の拡大に取り組んでおります。

また、8月からは市こども家庭センター直営の産後ケア事業「ママえ～るケアぷらす」を開始し、専属助産師によるマンツーマンのパーソナルケアを基本とした受け入れを行うとともに、ママ達の交流促進や保育園環境を知っていただくための産後サポート事業として、5つの子育て支援センターにおいて「ママえ～る cafe」も開始し、産婦の皆様への支援の拡大を図ったところであります。

御希望する個人経営については、産後ケア事業の開業権を有する助産師等が開業するか否かは、個人の判断に依らざるを得ないことから、市が直接開業を斡旋することは難しい状況ではありますが、個人開業の希望があった場合は、国の補助メニューの活用を促すなどの相談支援を行うなど、今後も個人経営も含めた受け入れ施設の拡大を継続してまいりたいと考えております。

（令和8年8月5日回答）

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。